

# 平成30年7月豪雨について

平成31年2月26日

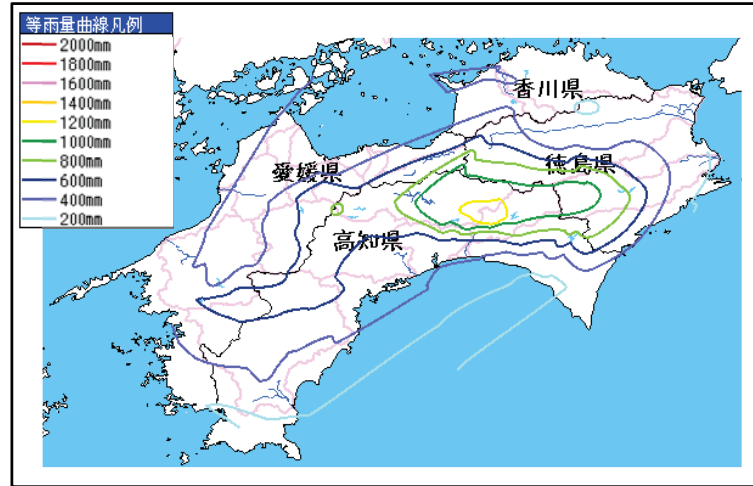
高知河川国道事務所



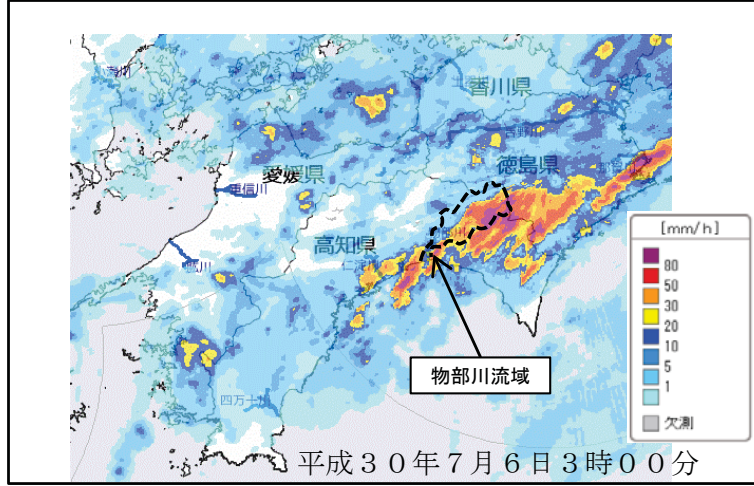
# 平成30年7月豪雨による物部川の出水状況①

- 平成30年7月豪雨は、太平洋高気圧の縁に沿って暖かく湿った空気が流れ込み、西日本から東日本に停滞する梅雨前線の活動が活発になり、広い範囲で記録的な大雨が降った。
- 物部川流域では、この降雨により、7月3日から7月7日までの5日間の総降水量が多いところで1,600mmを超えるなど、記録的な大雨となり、深淵地点上流の流域平均総降水量は、1,219mm(速報値)を記録した。

■梅雨前線等雨量線図(国交省・気象庁観測地点)  
〔総雨量:平成30年7月3日～7月7日〕



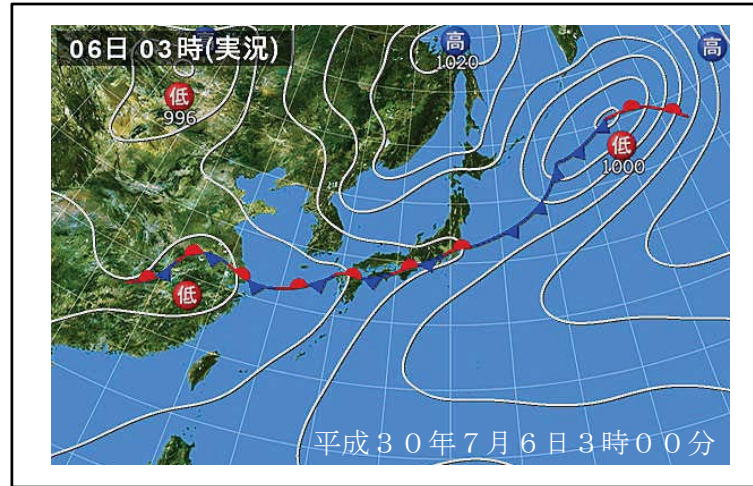
■レーダー雨量画像  
(出典:川の防災情報ウェブサイト)



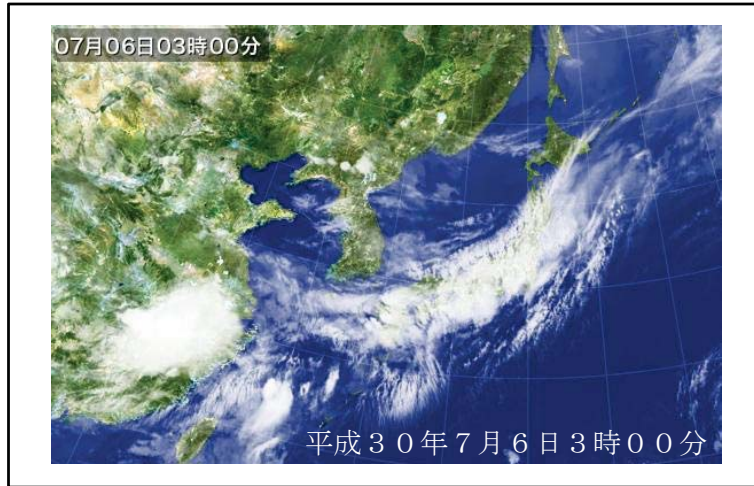
■代表的な雨量観測所における累加雨量  
〔平成30年7月3日～7月7日〕

物部川流域:	
市宇(国交省)	1,406mm
大栃(気象庁)	1,072mm
大東(国交省)	1,346mm
香北(国交省)	1,641mm
佐敷(国交省)	891mm
岩改(国交省)	723mm

■天気図  
(出典:一般財団法人日本気象協会ウェブサイト)

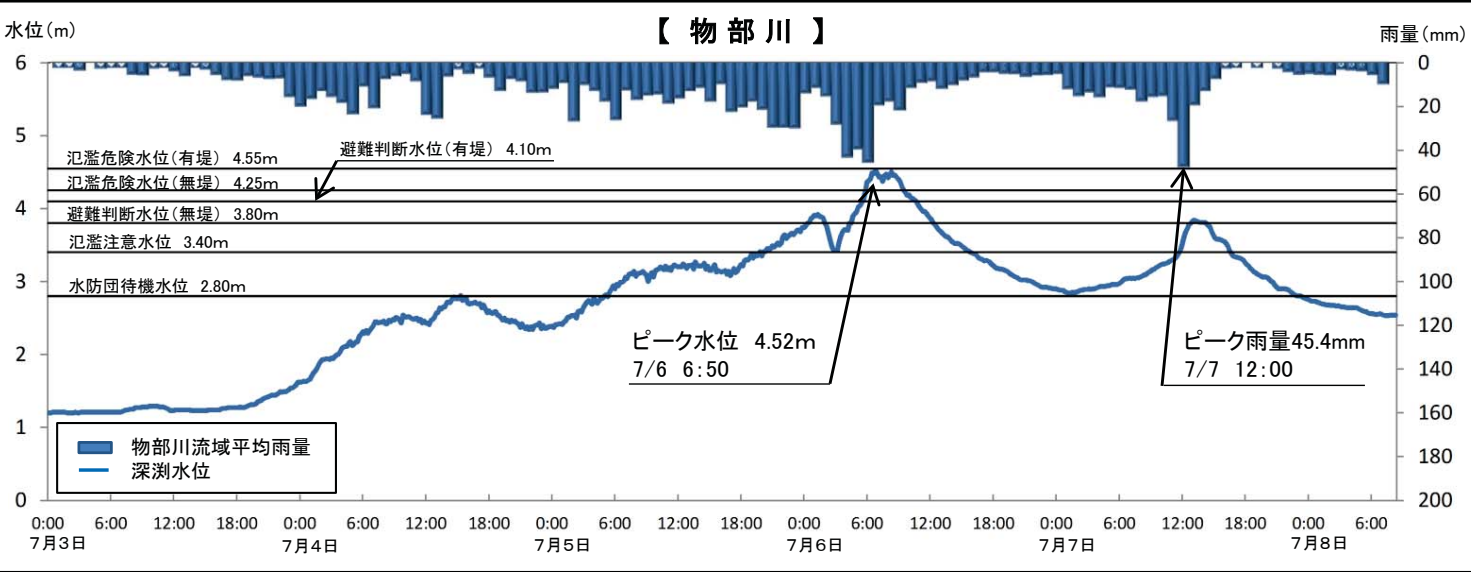


■気象衛星画像  
(出典:一般財団法人日本気象協会ウェブサイト)



# 平成30年7月豪雨による物部川の出水状況②

物部川流域では、香南市野市町の深淵水位観測所(基準地点)において、5日5時00分頃に「水防団待機水位2.80m」、5日19時50分頃に「氾濫注意水位3.40m」、6日0時20分頃に「避難判断水位(無堤)3.80m」、6日5時40分頃に「避難判断水位(有堤)4.10m」、6日6時00分頃に「氾濫危険水位(無堤)4.25m」を超過した。  
 6日6時50分頃には、最高水位4.52m【氾濫危険水位(有堤)4.55mまで3cm】に達した。



## ■出水経過一覧(7月5日から7月7日)

- 7月 5日 5時00分頃 水防団待機水位2.80m超過
- 7月 5日 8時00分 高知河川国道事務所 注意体制
- 7月 5日 10時28分 大雨警報発令
- 7月 5日 14時40分 水防警報第1・2号(待機・準備)発令
- 7月 5日 19時50分頃 氾濫注意水位3.40m超過
- 7月 5日 20時30分 高知河川国道事務所 注意体制→警戒体制
- 7月 5日 20時50分 水防警報第3号(出動)発令
- 7月 5日 21時10分 物部川氾濫注意情報発令
- 7月 6日 0時20分頃 避難判断水位(無堤)3.80m超過
- 7月 6日 0時50分 物部川氾濫警戒情報発令
- 7月 6日 5時20分 高知河川国道事務所 警戒体制→非常体制
- 7月 6日 5時40分頃 避難判断水位(有堤)4.10m超過
- 7月 6日 6時00分頃 氾濫危険水位(無堤)4.25m超過
- 7月 6日 6時30分 物部川氾濫危険情報発令
- 7月 6日 6時50分頃 ピーク水位4.52m記録
- 7月 6日 6時53分 洪水警報発令
- 7月 6日 7時40分 物部川氾濫発生情報発令
- 7月 6日 9時40分頃 氾濫危険水位(無堤)4.25mを下回る
- 7月 6日 10時50分頃 避難判断水位(有堤)4.10mを下回る
- 7月 6日 12時30分頃 避難判断水位(無堤)3.80mを下回る
- 7月 6日 14時00分 物部川氾濫注意情報(警戒情報解除)発令
- 7月 6日 15時20分 高知河川国道事務所 非常体制→警戒体制
- 7月 6日 16時00分頃 氾濫注意水位3.40mを下回る
- 7月 7日 11時50分頃 氾濫注意水位3.40m超過
- 7月 7日 12時50分頃 避難判断水位(無堤)3.80m超過
- 7月 7日 13時15分 物部川氾濫警戒情報発令
- 7月 7日 14時20分頃 避難判断水位(無堤)3.80mを下回る
- 7月 7日 16時40分頃 氾濫注意水位3.40mを下回る
- 7月 7日 18時30分 物部川氾濫注意情報(警戒情報解除)発令
- 7月 7日 18時50分 水防警報第4号(解除)発令
- 7月 7日 23時30分頃 水防団待機水位2.80mを下回る



▲平常時の物部川橋付近  
平常時の深淵水位観測所水位:約0.5m

約4mの  
水位上昇

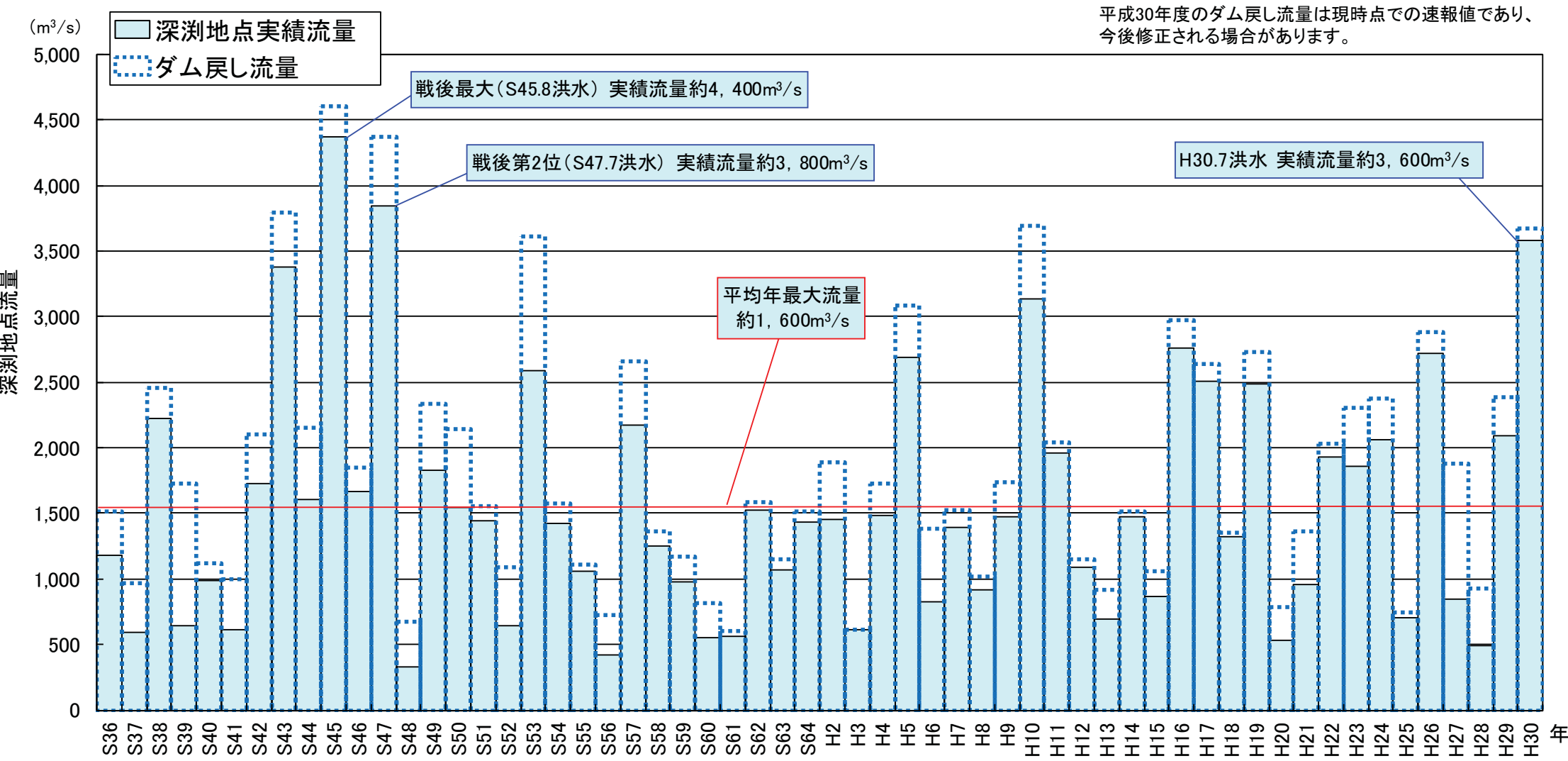


▲物部川橋付近(平成30年7月6日7:00頃)  
同時刻の深淵水位観測所水位:4.52m



# 平成30年7月豪雨による物部川の出水状況③

■ 深淵水位観測所(基準地点)の最高水位4.52mは、昭和36年からの観測開始以降、昭和47年7月洪水に次いで、2番目に大きな水位であった。最大流量(実績流量)は、約3,600m<sup>3</sup>/sに達した。

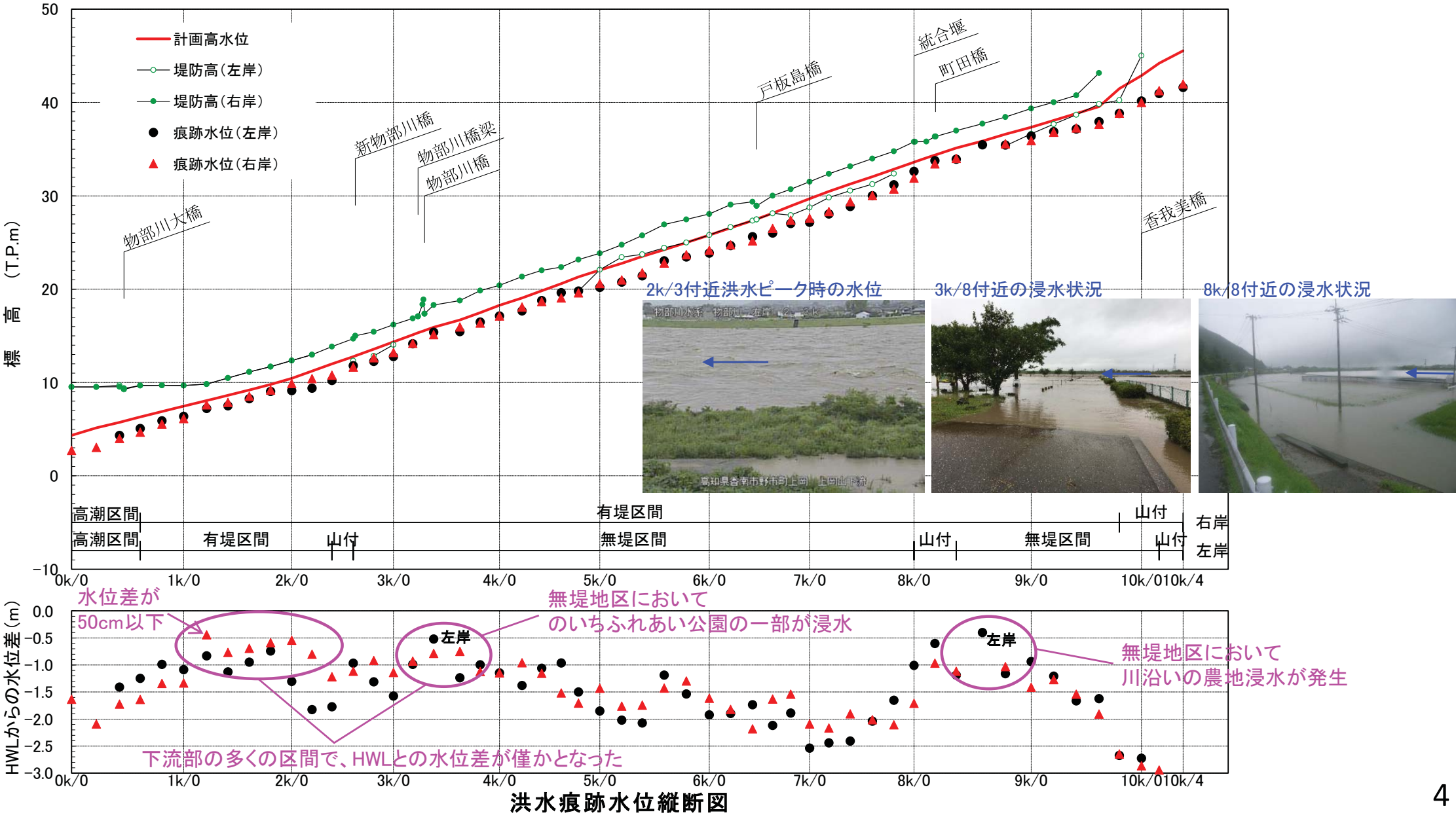


深淵水位観測所 各年最大流量(観測流量・ダム戻し流量)

※ダム戻し流量: 上流ダム群による洪水調節がなかった場合の流量

# 平成30年7月豪雨による物部川の出水状況④

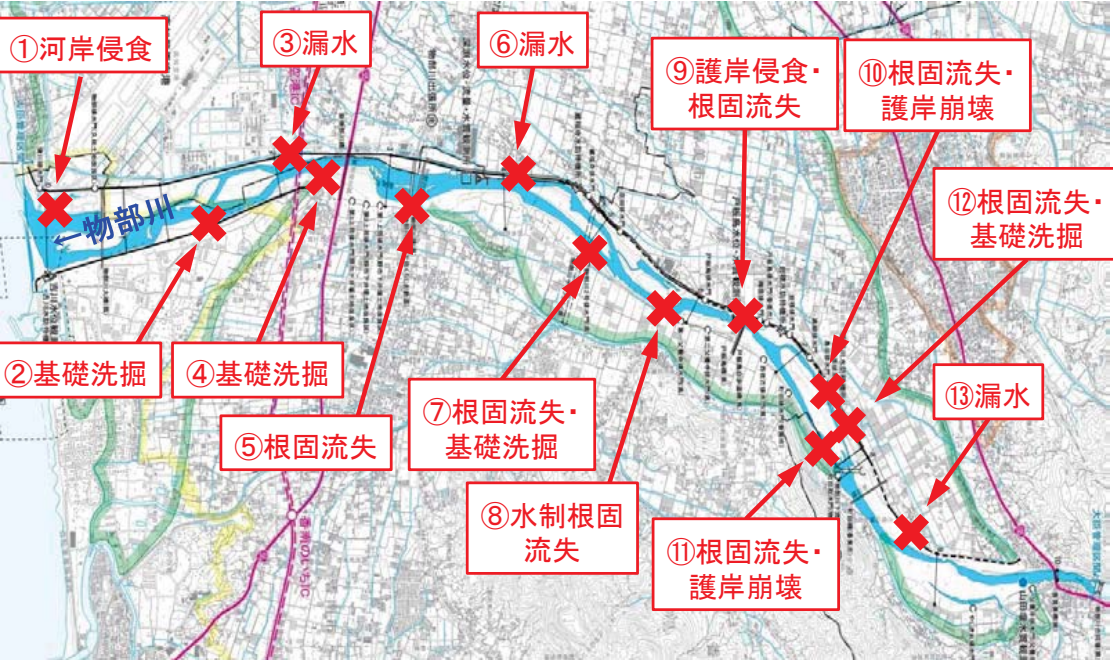
- 河川水位は4k/0付近より下流の区間において、HWLとの水位差が僅かとなった。特に1k/2付近では水位差が50cmもなかった。また、3k/0～4k/0付近では、左岸側の無堤地区の浸水が発生した。
- 下ノ村地区上流の左岸側の無堤地区では、流下能力確保対策(河道の掘削等)に未着手であり、川沿いの農地が浸水した。





# 平成30年7月豪雨による物部川の被災状況

■護岸・根固の流失、河岸侵食、堤防漏水による被災が、13箇所(漏水3箇所・洗掘10箇所)にも及んだ。



河岸侵食(箇所①)



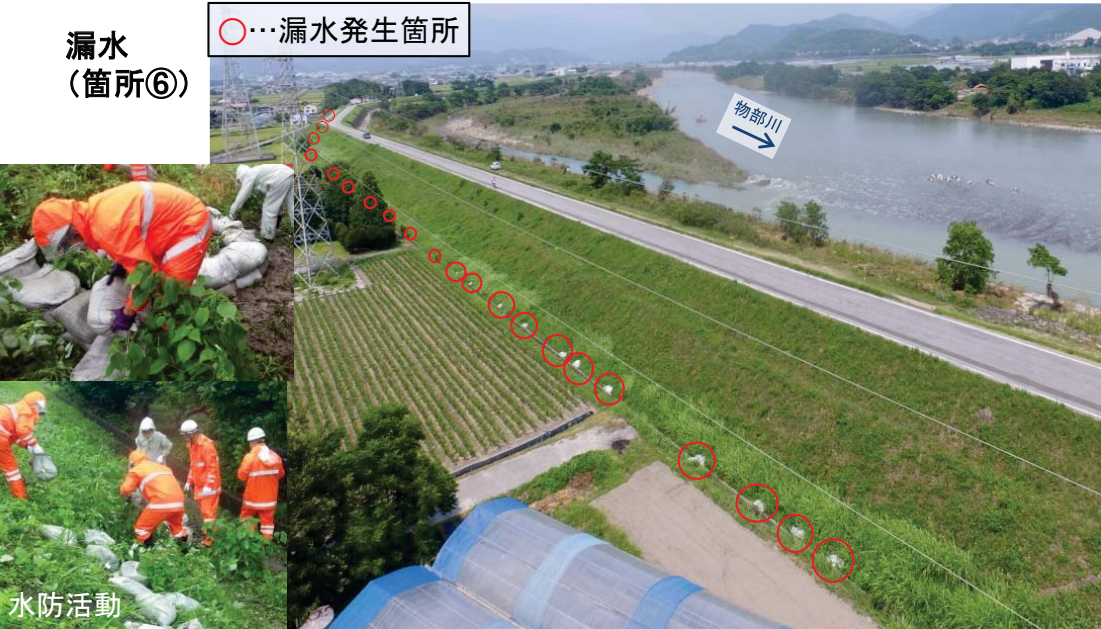
護岸崩壊(箇所⑩)



根固流失(箇所⑤)



根固流失(箇所⑩)



漏水(箇所③)



水制根固流失(箇所⑧)

